




【様式2】

②食育月間以外の月の取組

提出都道府県名 政令指定都市名	三重県
取組市町村名 取組団体・企業名	伊勢市立小俣中学校
取組の名称	ゲストティーチャーを招いての授業「いのちをいただく」 I：明野高校生による授業 II：地域の精肉店さんから学ぶ（調理実習）
実施時期	I：11月11日（月） 11月18日（月） II：11月25日（月） 11月26日（火） 11月27日（水）
取組内容	<p>1 対象者 中学2年生</p> <p>2 体験場所 I：被服室 II：調理室</p> <p>3 参加人数 200名（6クラス）</p> <p>4 ねらい 私たちの食生活は常にいのちをいただいている。毎日食事ができることに感謝をし、いのちについて考える。</p> <p>5 内容</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  <p>明野高校生産科学畜産専攻の生徒による講義を受ける。実際に学校で食肉として飼育をいる豚は、ペットではなく、生まれた時から食肉になる運命であることを知り、「いのち」について考える機会とする。</p> </div> <div style="flex: 1;">   </div> </div> <p>また「あかりのぼーく」として出荷された豚肉を取り扱っている伊勢屋精肉店の雲井氏をゲストティーチャーとし招き、調理実習を行う。あかりのぼーくとその他(アメリカ産)の肉とを食べ比べ、育て方や加工の方法で肉質に変化があることを知る。これらの授業を通して、いのちの大切さを少しでも理解できるように指導した。</p> <p>6 生徒の振り返りより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いのちを無駄にしないために、これからは残さないようにしなければいけないと思った。給食もしっかり食べたい。 ・あかりのぼーくの脂身は、甘くておいしかった。 ・育てた豚を出荷する日は、悲しくないのかなあと思った。 ・簡単に食べ物を残していたけど、全てのものにいのちがあるのだと気づいた。 ・授業の前に豚に餌やりをすると聞いて、動物を飼ったり飼育したりするのは、大変なんだとわかった。かわいいだけではいけないと思った。